

2025年10月期 中間期 決算説明会

2025/6/19

本日のアジェンダ

I. 事業環境	 3
II. 2025年10月期 中間期実績	 6
III. アクシーブ概況	 15
IV. 2025年10月期 業績予想	 21
V. 新剤・新技術の開発状況	 27
VI. 気候変動・環境負荷の低減	 30
VII. 化成品事業の成長ドライバー	 33
VIII. 質疑応答	

本日のアジェンダ

I. 事業環境

II. 2025年10月期 中間期実績

III. アクシーブ概況

IV. 2025年10月期 業績予想

V. 新剤・新技術の開発状況

VI. 気候変動・環境負荷の低減

VII. 化成品事業の成長ドライバー

VIII. 質疑応答

事業環境

米国関税政策の影響

- 米国関税政策が当社製品に与える直接的影響は、現時点においては軽微と認識。今後の動向をひきつづき注視。

原油・ナフサ価格

- 4月までの原油価格は1月高値から下落基調。国産ナフサ価格も4月は低水準。

対ドル為替動向

- 期中平均レート 151円（前年同期149円、当社算出）
 中間期末日レート 143円（前年同期157円）

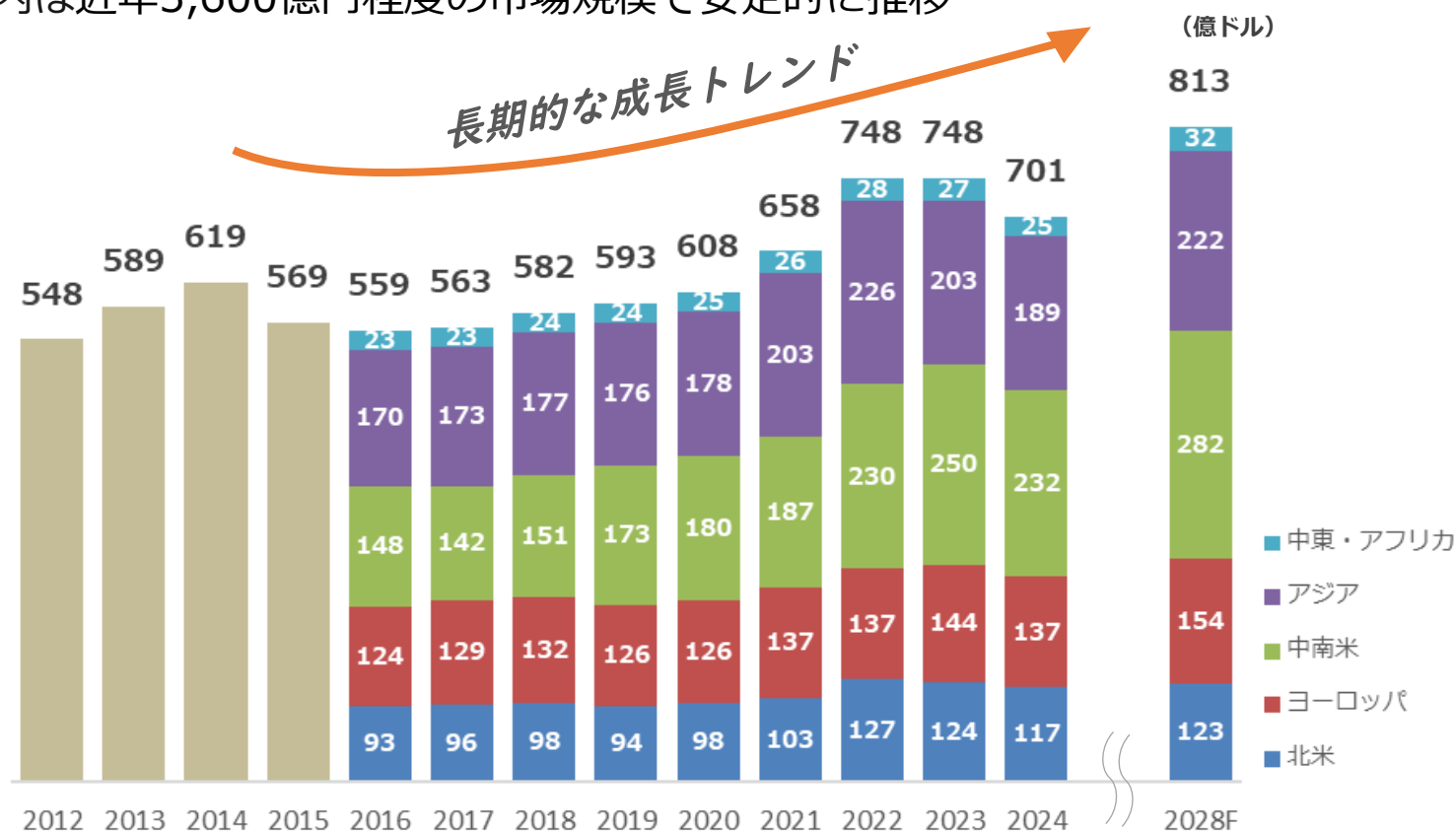
穀物市況

- 主要穀物価格（コムギ、ダイズ、トウモロコシ）は依然低迷。
- コメ価格も国内での高騰に反し、世界的には下落基調が継続。
- 米国関税政策が米国主要穀物の作付面積に及ぼす影響を注視。

事業環境

農薬市場

- 流通在庫調整に起因する一時的な落ち込みはあるものの、中長期的成長を予想
- 国内は近年3,600億円程度の市場規模で安定的に推移



本日のアジェンダ

I. 事業環境

II. 2025年10月期 中間期実績

III. アクシーブ概況

IV. 2025年10月期 業績予想

V. 新剤・新技術の開発状況

VI. 気候変動・環境負荷の低減

VII. 化成品事業の成長ドライバー

VIII. 質疑応答

2025年10月期 中間期実績

(単位：億円)

	(A) 2024 /2Q 実績	(B) 2025 /2Q 実績	(B) - (A)	
			増減	増減率
売上高	881	962	+81	+9%
売上総利益	201	208	+7	+3%
営業利益	88	94	+6	+7%
経常利益	130	83	▲47	▲36%
親会社株主に帰属する中間純利益	93	63	▲30	▲33%

参考：平均レート

¥/ドル=149

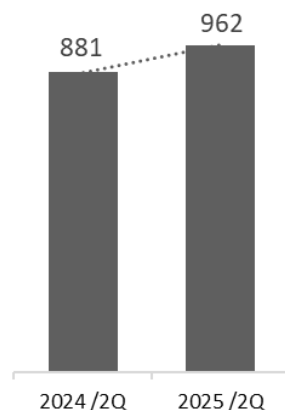
¥/ドル=151

	(C) 2025 /2Q 業績予想 (2024.12.13)	(B) - (C)	
		増減	増減率
売上高	884	+78	+9%
売上総利益	-	-	-
営業利益	70	+24	+35%
経常利益	81	+2	+2%
親会社株主に帰属する中間純利益	58	+5	+8%

¥/ドル=150

売上高

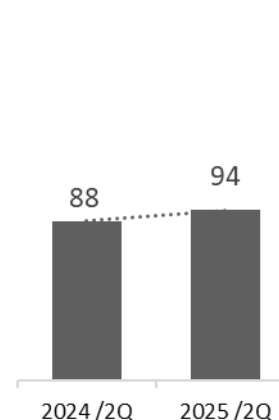
前年同期比 **+81** 億円



- (+) いずれの事業セグメントも前年を上回り増収
- (+) アクシーブ：+38億円

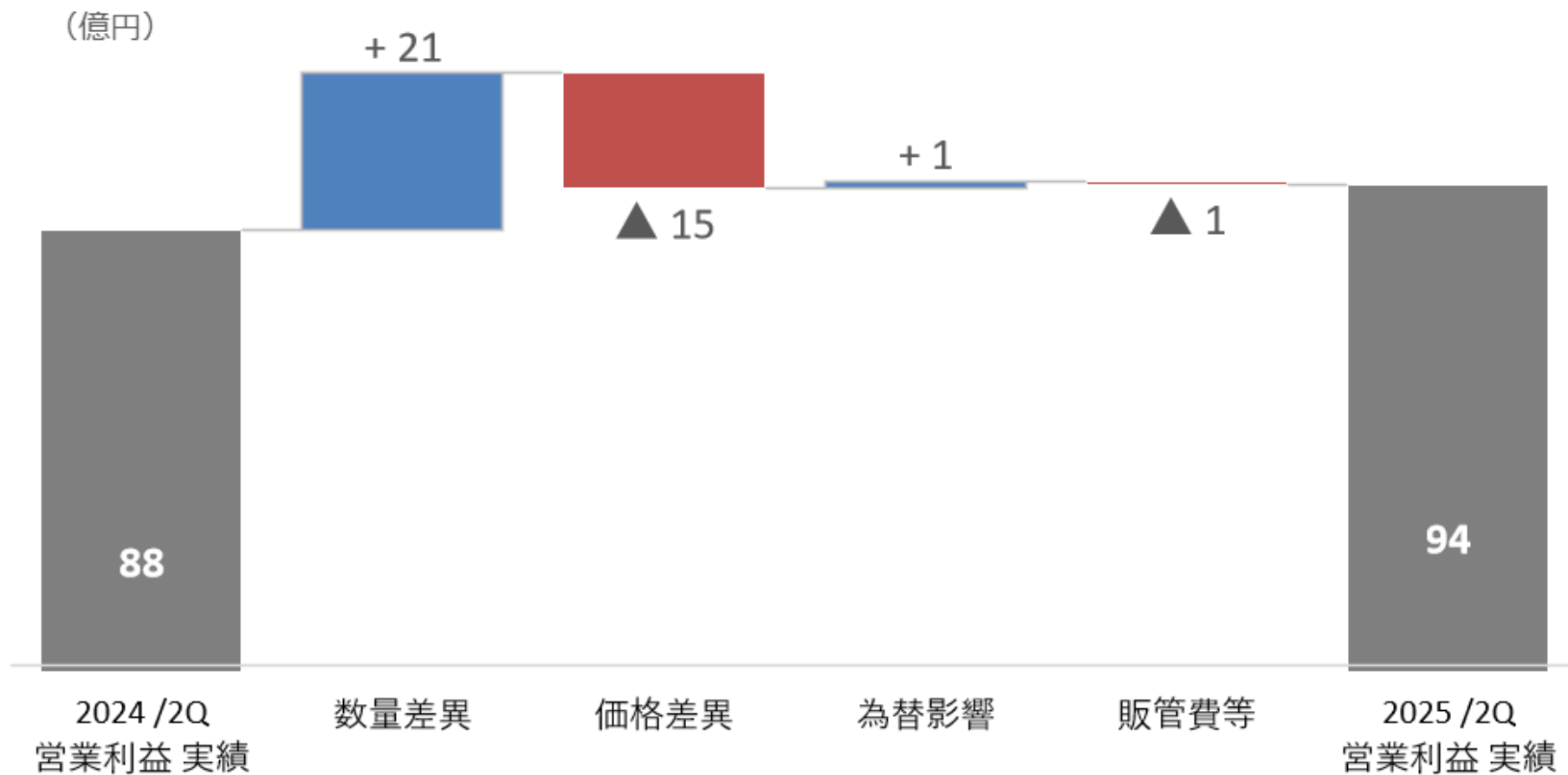
営業利益

前年同期比 **+6** 億円



- (+) 農薬事業の増益
- (+) 化成品事業の増益

営業増益の要因

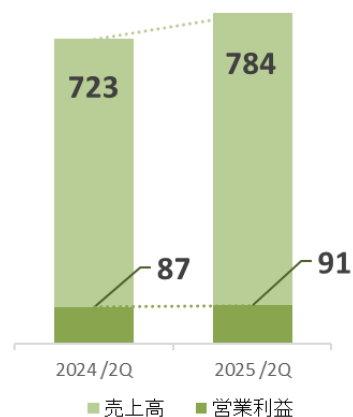


2025年10月期 中間期実績（セグメント別）

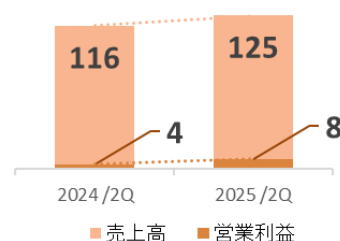
（単位：億円）

	2024 /2Q 実績	2025 /2Q 実績	増減	増減率
売上高	881	962	+81	+9%
農薬及び農業関連	723	784	+61	+8%
化成品	116	125	+9	+7%
その他	42	52	+11	+26%
営業利益	88	94	+6	+7%
農薬及び農業関連	87	91	+4	+5%
化成品	4	8	+5	+124%
その他	6	5	▲1	▲17%
（調整額）	▲9	▲10	▲2	-

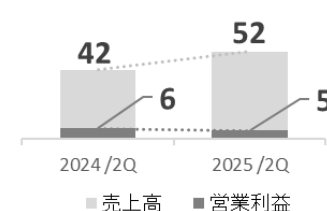
農薬及び農業関連



化成品



その他



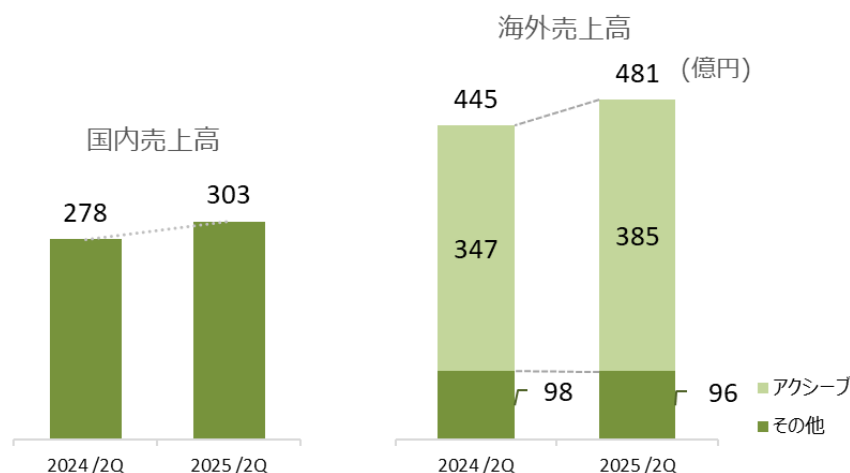
農薬及び農業関連事業

国内

- 除草剤「エフィーダ」を含む、水稻用除草剤が好調
- 殺菌剤「ディザルタ」を含む、水稻用箱処理剤も順調
- カメムシ類の被害拡大による殺虫剤の需要増

海外

- 除草剤「アクシーブ」のアルゼンチン向け出荷が減少した一方、米国向けは関税政策の変更に伴うコスト増を懸念した出荷時期の前倒しにより販売増、オーストラリア向けは特許侵害品に対する法対応が奏功し出荷増、ブラジル向けも販売促進の強化により出荷増。



化成品事業

塩素化

- 前年同期並みで推移

精密化学品

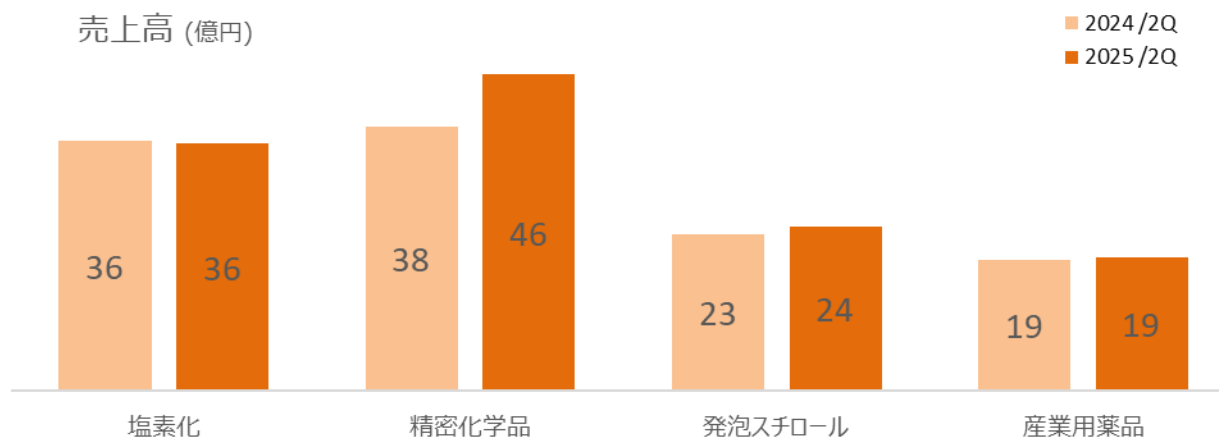
- 生成AIサーバー向け電子材料分野の需要好調によるビスマレイミド類の出荷増
- アミン類の出荷も堅調に推移

発泡スチロール

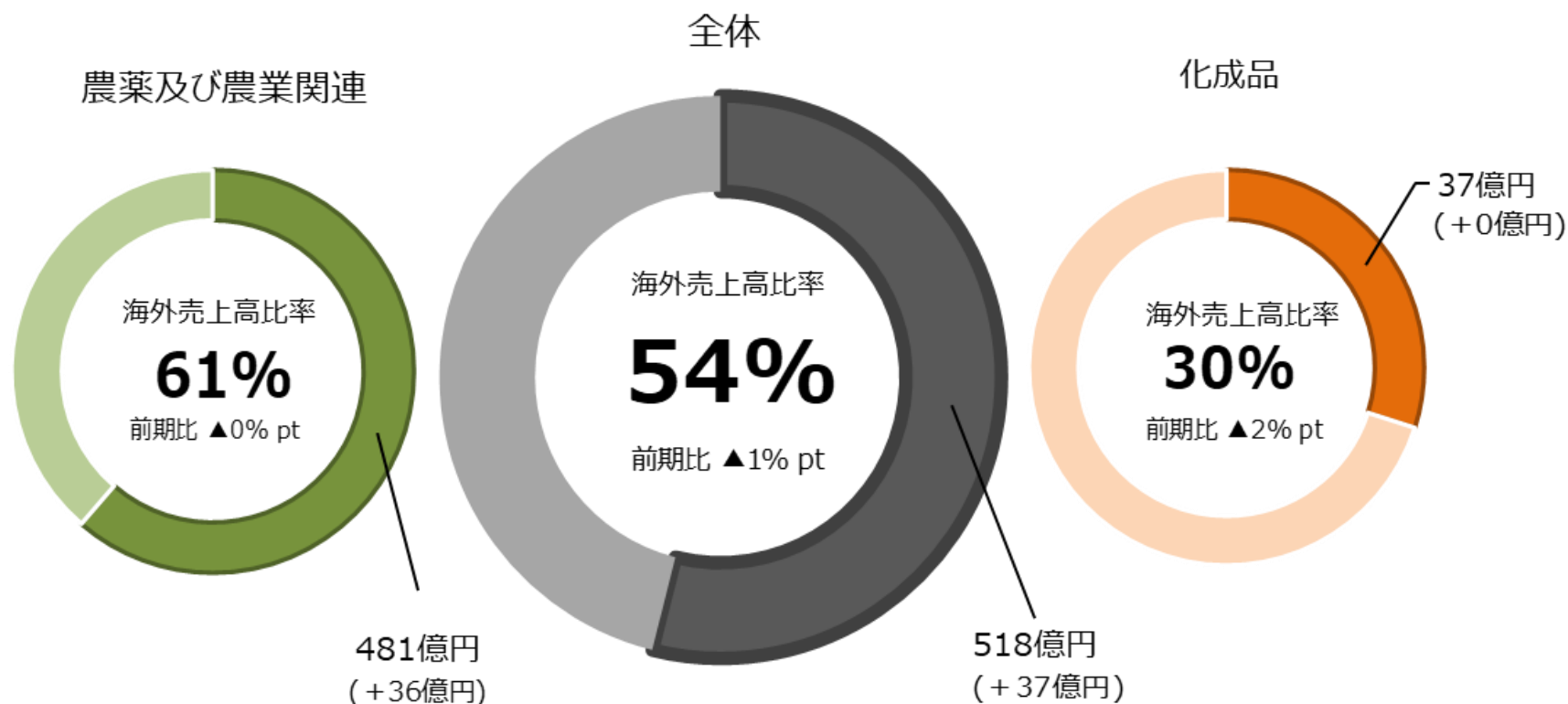
- 前年同期並みで推移

産業用薬品

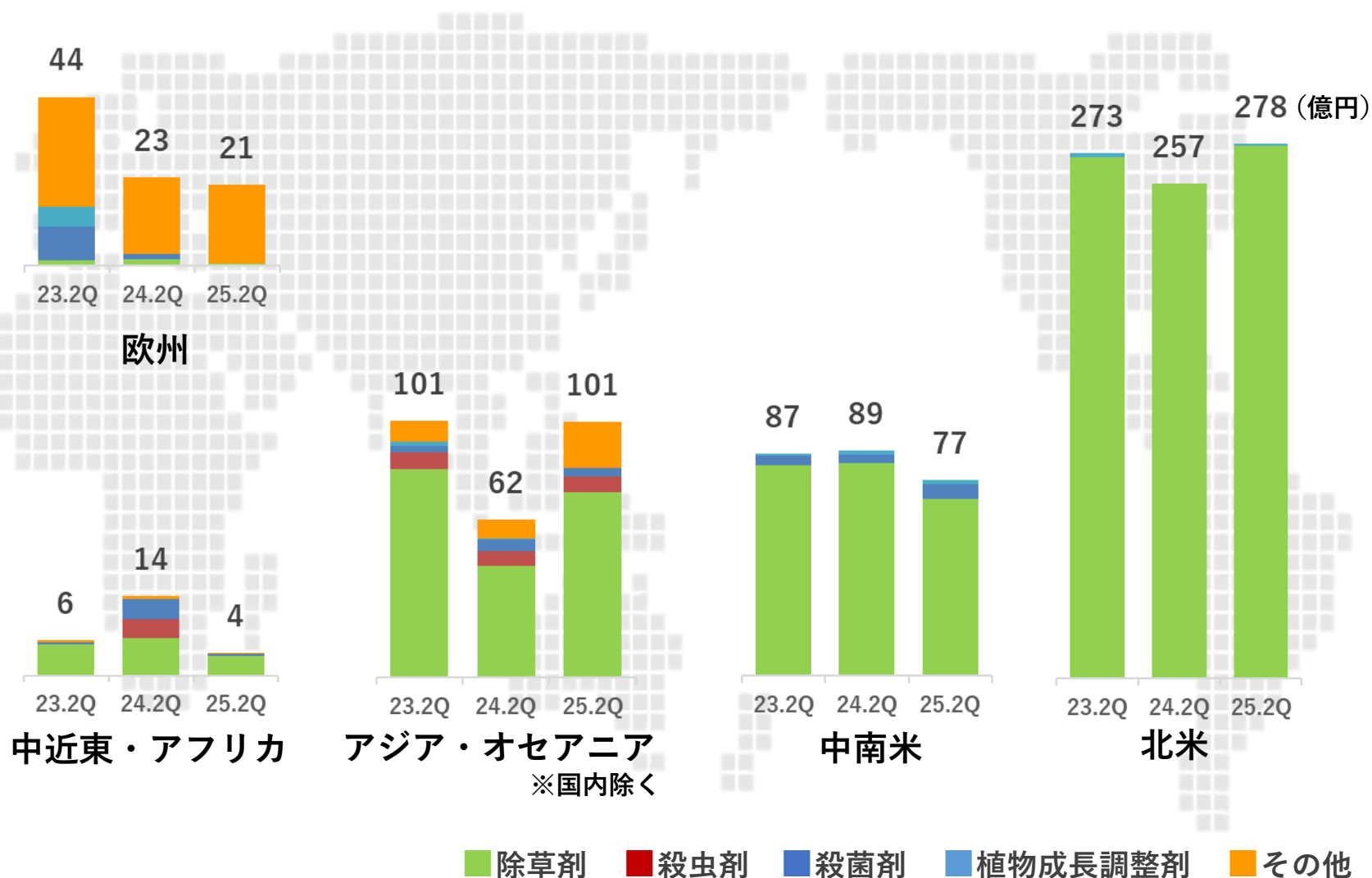
- 前年同期並みで推移



2025年10月期 中間期実績（海外売上高比率）



地域別・用途別 売上高（農薬及び農業関連事業）



2025年10月期 中間期実績 総括

事業全体

売上高	962 億円	(前年同期比 +81億円)	・ いずれのセグメントも前年を上回り、81億円の増収、6億円の営業増益。
営業利益	94 億円	(前年同期比 +6億円)	・ 24億円の為替差益を計上した前年から一転、26億円の為替差損を計上したことにより47億円の経常減益。
経常利益	83 億円	(前年同期比 ▲47億円)	(為替差損益の主な内訳は外貨建預金および債権債務の評価損益)

米ドル円レート (前中間期) 期首 / 期中平均 / 中間期末 : 150円 / 149円 / 157円
(当中間期) : 154円 / 151円 / 143円

農薬及び農業関連事業

売上高	784 億円	(前年同期比 +61億円)	・ 除草剤「アクシーブ」のアルゼンチン向け出荷が減少した一方、米国向けは関税政策の変更に伴うコスト増を懸念した前倒しにより出荷増、オーストラリア向けは特許侵害品に対する法対応が奏功し出荷増、ブラジル向けも販売促進の強化により出荷増。
営業利益	91 億円	(前年同期比 +4億円)	・ 殺菌剤「ディザルタ」、除草剤「エフィーダ」の国内販売も好調。
			・ カメムシ類の被害拡大による殺虫剤の需要増

化成品事業

売上高	125 億円	(前年同期比 +9億円)	・ 生成AIサーバー向け電子材料分野の需要が好調に推移し、ビスマレイミド類の出荷増。
営業利益	8 億円	(前年同期比 +5億円)	・ アミン類の出荷も堅調に推移。

その他事業

売上高	52 億円	(前年同期比 +11億円)	・ 建設業における新規工事受注等が増加。
営業利益	5 億円	(前年同期比 ▲1億円)	

本日のアジェンダ

I. 事業環境

II. 2025年10月期 中間期実績

III. アクシーブ概況

IV. 2025年10月期 業績予想

V. 新剤・新技術の開発状況

VI. 気候変動・環境負荷の低減

VII. 化成品事業の成長ドライバー

VIII. 質疑応答

アクシーブ概況



アメリカ

2025年度 :売上高計画 **450**億円 (前年実績 **420**億円)

当中間期 :売上高実績 **269**億円 (前年同期実績 **251**億円)

- 米国関税政策の変更に伴うコスト増を懸念した前倒し出荷増



オーストラリア

2025年度 :売上高計画 **23**億円 (前年実績 **32**億円)

当中間期 :売上高実績 **49**億円 (前年同期実績 **15**億円)

- 目論見どおり法対応が奏功し、すでに年間計画を上回っている
- 2-4月度の出荷なし

アグシーブ概況



アルゼンチン

2025年度 :売上高計画 **102億円** (前年実績 **139億円**)

当中間期 :売上高実績 **16億円** (前年同期実績 **50億円**)

- ジェネリック参入による影響の不透明感は以前より高まっている
- 出荷後倒しとなり第2四半期より販売を開始



ブラジル

2025年度 :売上高計画 **62億円** (前年実績 **92億円**)

当中間期 :売上高実績 **47億円** (前年同期実績 **30億円**)

- 販促支援の強化が奏功し出荷増による増収増益
- 一部前倒し出荷あり

アクション概況 - 特許侵害品対策 -

- **13件**（製造国：中国**8件** / 販売国：オーストラリア**5件**）の提訴案件に対し**3件**について和解、他**10件**は係争中
 - 製造国と販売国の双方で法対応を並行して実施し、当社サイトでリリース
 - 特に製造国である中国と、販売国である豪州からのダウンロード件数が多い
 - 一連の対応は、特許侵害品の市場参入に対するけん制に有効に機能



知財：特許対応、法対応

開発：混合剤開発、他社原体特許

調達：調達コスト低減、安定調達

生産：品質維持、製剤安定供給、ESG

営業：価格調整、ビジネスモデル検討

アクシーブ概況 -ジェネリック品の市場参入状況-

物質特許満了

	2022	2023	2024	2025	2026	~	2030	2031
 米国	289億円 当社アクシーブ売上高	459億円	420億円	データ保護 期間満了	ジェネリック 参入予想			
 オーストラリア	ジェネリック 参入 111億円	109億円	32億円					
 アルゼンチン	67億円	64億円	ジェネリック 参入 139億円					
 ブラジル	49億円	62億円	92億円			データ保護 期間満了	ジェネリック 参入予想	

- オーストラリアでは2025年に当社特許を回避した可能性のあるジェネリック品が増加
- ジェネリック品の動向や価格を調査し、適切な対応策を実施

アクションプラン概況 -ジェネリック品対策-

(販売)

競争可能な価格戦略の策定と実践

(生産)

**原体製造法のさらなる効率化によるコスト低減により
世界で最も安価な生産をめざす**

(開発)

新規混合剤開発による高付加価値化の推進

本日のアジェンダ

I. 事業環境

II. 2025年10月期 中間期実績

III. アクシーブ概況

IV. 2025年10月期 業績予想

V. 新剤・新技術の開発状況

VI. 気候変動・環境負荷の低減

VII. 化成品事業の成長ドライバー

VIII. 質疑応答

2025年10月期 業績予想（前期比）

（単位：億円）

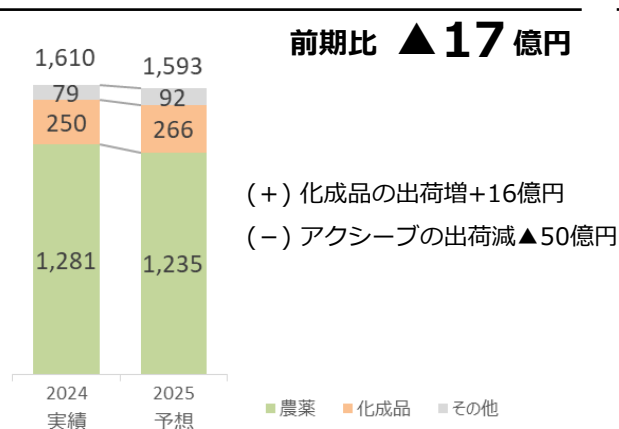
	2024 実績	2025 予想	増減	増減率
売上高	1,610	1,593	▲17	▲1%
農薬及び農業関連	1,281	1,235	▲46	▲4%
化成品	250	266	+16	+7%
その他	79	92	+13	+16%
営業利益	114	104	▲10	▲8%
経常利益	183	145	▲38	▲21%
親会社株主に帰属する当期純利益	136	109	▲27	▲20%

参考：平均レート

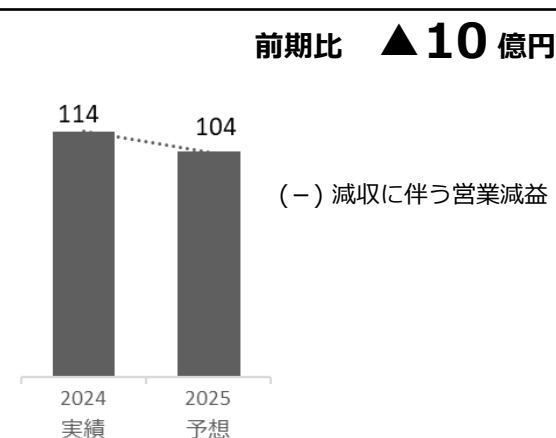
¥/ドル=151

¥/ドル=150

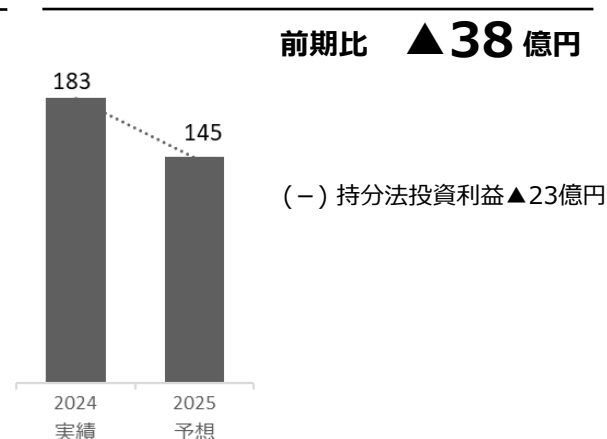
売上高



営業利益



経常利益

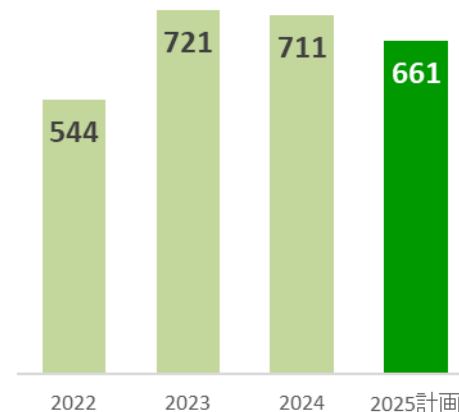


2025年10月期 見通し（農薬及び農業関連）

アクシーブ（除草剤） 2025年度見通し 売上高661億円

- オーストラリア向けは計画を上回るが、アルゼンチン向けはジェネリック参入の影響により計画を下回る見通し
⇒ 期初計画からの大幅な乖離はないと予想

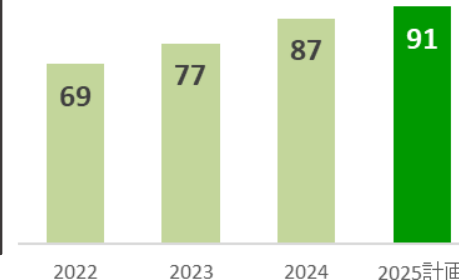
アクシーブ売上推移



エフィード（除草剤） 2025年度見通し 売上高91億円

- 安定した効果とイネへの高い安全性が評価され販売好調
- 昨年度に引き続き、国内で新規混合剤 2 剤を販売開始
- 既に販売を開始している韓国に加え、欧州にてコムギ・水稲用除草剤として登録推進

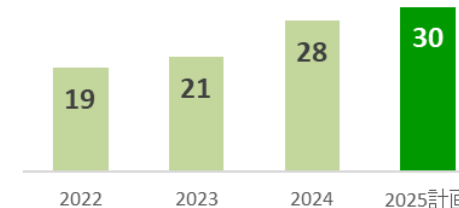
エフィード売上推移



ディザルタ（殺菌剤） 2025年度見通し 売上高30億円

- 効果の安定性が好評価、順調な販売が続く
- 昨年度に引き続き、国内で新製品 2 剤を販売開始
- 既に販売している韓国に加え、今後も海外開発を推進

ディザルタ売上推移



2025年10月期 見通し（化成品）

塩素化

- 一部のクロロキシレン系製品の出荷増により増収を計画

精密化学品

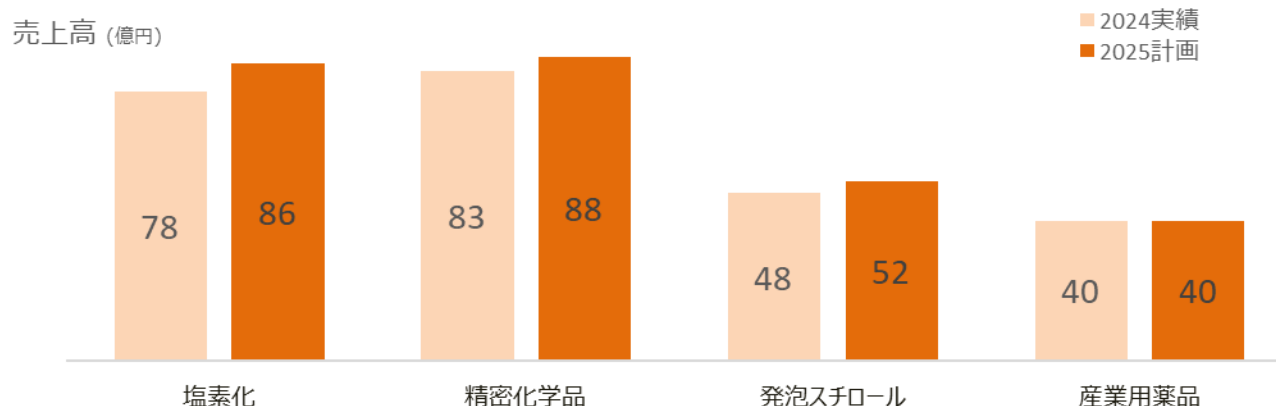
- 半導体需要の回復により、ビスマレイミド類の出荷増

発泡スチロール

- 価格転嫁による増収を計画

産業用薬品

- 前期並み

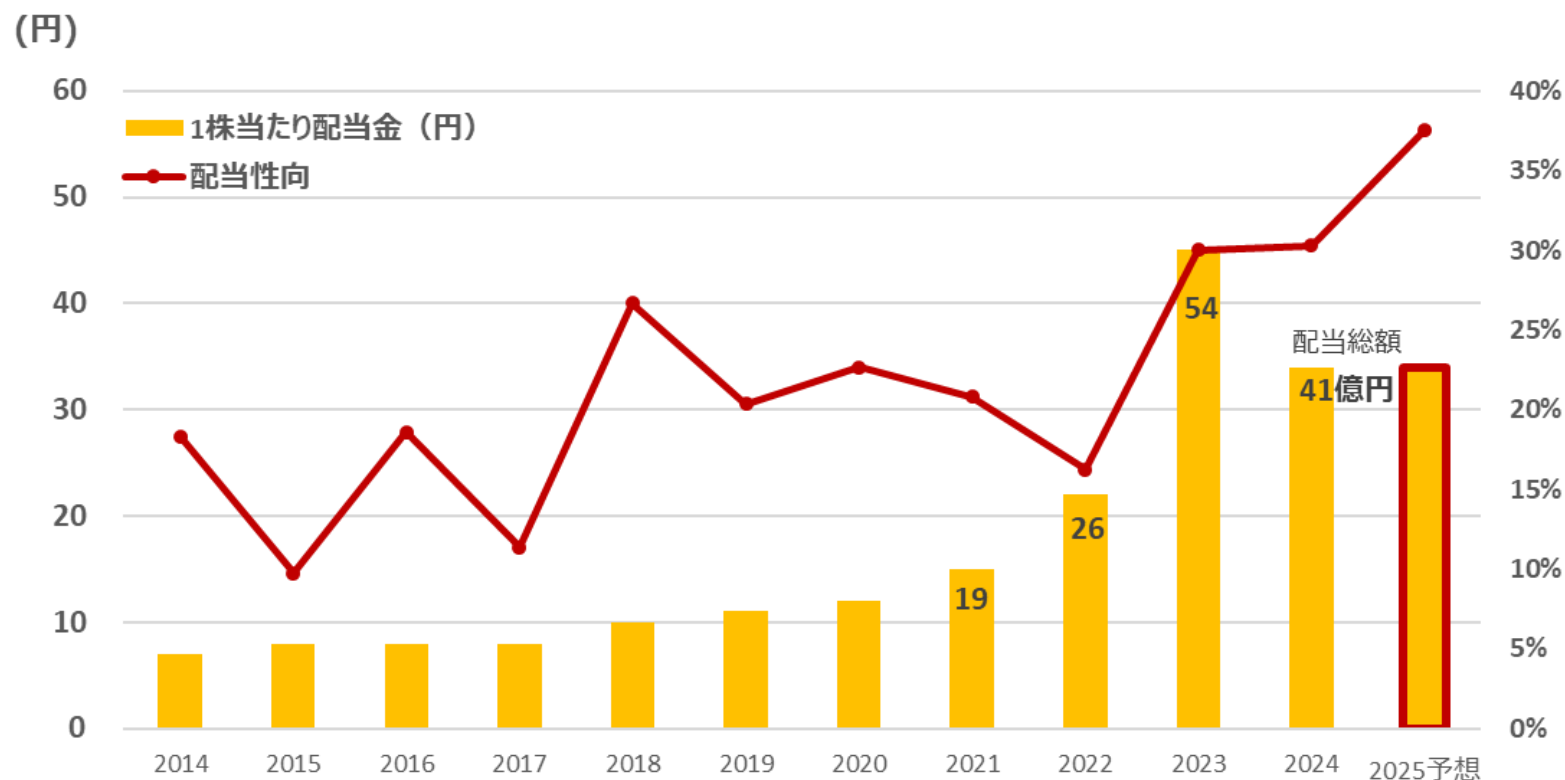


株主還元施策

配当性向30%以上を目標

2025年度 配当予想

中間配当10円+ 期末配当24円 = 年間配当34円（配当性向 37.5%）



研究開発費・設備投資・減価償却費

研究開発費

2024年度実績 **70**億円 → 2025年度計画 **71**億円
 (主な内容) 海外開発への取り組み強化、最先端技術の活用による研究推進

設備投資

2024年度実績 **99**億円 → 2025年度計画 **85**億円
 (主な内容) 新プラント建設、生産設備・研究施設の更新

減価償却費

2024年度実績 **53**億円 → 2025年度計画 **52**億円

本日のアジェンダ

I. 事業環境

II. 2025年10月期 中間期実績

III. アクシーブ概況

IV. 2025年10月期 業績予想

V. 新剤・新技術の開発状況

VI. 気候変動・環境負荷の低減

VII. 化成品事業の成長ドライバー

VIII. 質疑応答

新剤・新技術の開発状況

	分野	実用性評価段階	開発段階	上市 地域・作物拡大
殺虫剤				
フルベンチオフェノックス（バネンタ®）	殺ダニ剤		●	
殺虫剤A	水稲用殺虫剤		●	
殺虫剤B	水稲・園芸用殺虫剤	●		
殺菌剤				
リガード	水稲用殺菌剤		●	●
殺菌剤A	果樹・野菜用殺菌剤	●		
殺菌剤B	畑作用殺菌剤	●		
除草剤				
エフィーダ®	ムギ・水稲用除草剤			●
除草剤A	畑作用除草剤	●		
微生物農薬・バイオスティミュラント				
<i>Rhizobium vitis</i> ARK-1（エコアーク®）	根頭がんしゅ病防除剤		●	
微生物農薬A	果樹・野菜用防除剤	●		
微生物B	バイオスティミュラント	●		
資材C	バイオスティミュラント	●		

販売開始

新剤・新技術の開発状況



2025 年 1 月 22 日

クミアイ化学と米国 Valent 社、水稻用除草剤エフィーダの米国開発で業務提携

クミアイ化学工業株式会社（本社：東京都台東区、代表取締役社長：横山優、以下、「当社」）と **Valent U.S.A. LLC**（本社：米国カリフォルニア州サン・ラモン、社長兼CEO：Matt Plitt、以下「Valent」）は、**米国における水稻用除草剤エフィーダ®**（Effeeda®、一般名：フェンキノトリオン）の**共同開発に関わる独占的契約を締結**いたしました。本提携は、両社が作物保護におけるイノベーションを推進することで、水稻栽培における雑草防除上の課題を解決し、生産性向上や労働時間の削減を図ることで、持続可能な農業の実現に貢献するものであります。

当社と Valent は、エフィーダ® の特長を生かした製品を米国の生産者に提供することを目指し、農薬登録に向けてさらなる試験や評価に協力してまいります。**Valent では、本製品の開発により、両社が共同開発したレジメントやボレロなどを含む既存の水稻用除草剤の製品ポートフォリオの拡充**を目指しております。また、当社では、米国以外の国においても、エフィーダ®の海外開発に注力してまいります。

本日のアジェンダ

I. 事業環境

II. 2025年10月期 中間期実績

III. アクシーブ概況

IV. 2025年10月期 業績予想

V. 新剤・新技術の開発状況

VI. 気候変動・環境負荷の低減

VII. 化成品事業の成長ドライバー

VIII. 質疑応答

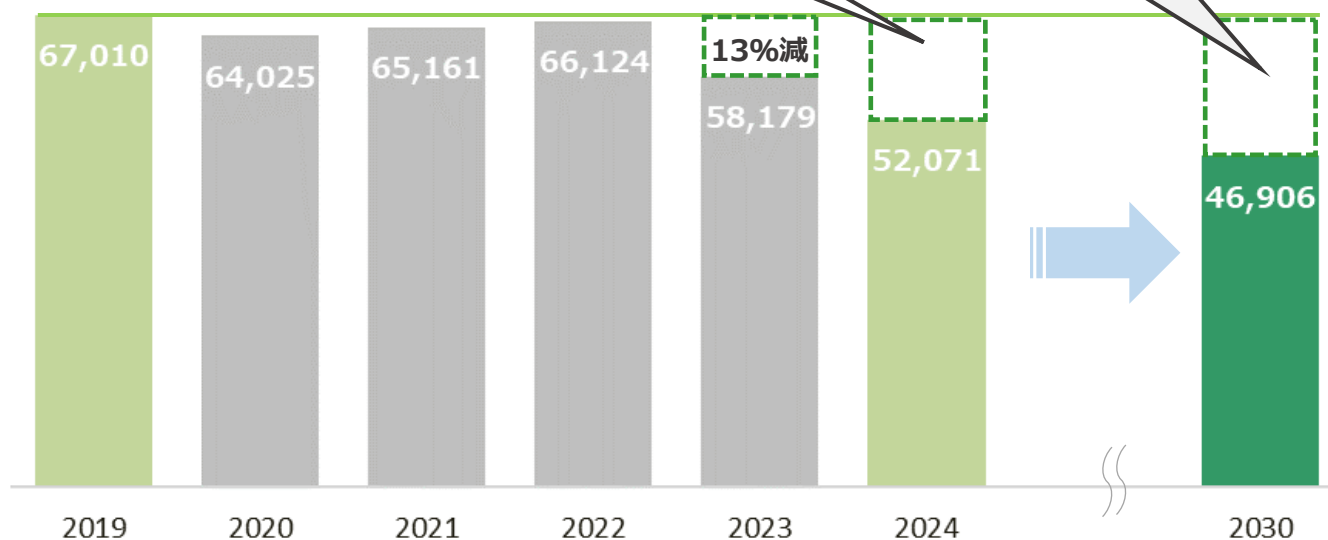
気候変動・環境負荷の低減 -GHG排出量-

創業100年の**2048年度**までに**カーボンニュートラル**を実現

2030年度までに GHG排出量2019年度比 30%減

2024年度実績は **22%減**

GHG排出量および削減目標(t-CO₂)



気候変動・環境負荷の低減 - 生物多様性への貢献-

■ 生物多様性の保全に貢献する「**30by30アライアンス**」に参加（2023年12月）

■ **ビオトープ**（3,030㎡，2025年4月完成）

「**懐かしい生き物たちと出会える場所**」をコンセプト
市街地に里山の景観を再現し、環境保全教育の場としても活用



ビオトープ「クミカ レフュジア菊川(静岡県)」の全景



30by30アライアンス …「30by30」は、生物多様性の損失を食い止め回復させるというゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標であり、G7で2021年に合意された内容。環境省が推奨している「30by30アライアンス」は、目標達成に向けた取り組みを行う有志を参加メンバーとする枠組み。

本日のアジェンダ

I. 事業環境

II. 2025年10月期 中間期実績

III. アクシーブ概況

IV. 2025年10月期 業績予想

V. 新剤・新技術の開発状況

VI. 気候変動・環境負荷の低減

VII. 化成品事業の成長ドライバー

VIII. 質疑応答

化成品事業の成長ドライバー -ビスマレイミド(BMI)類-

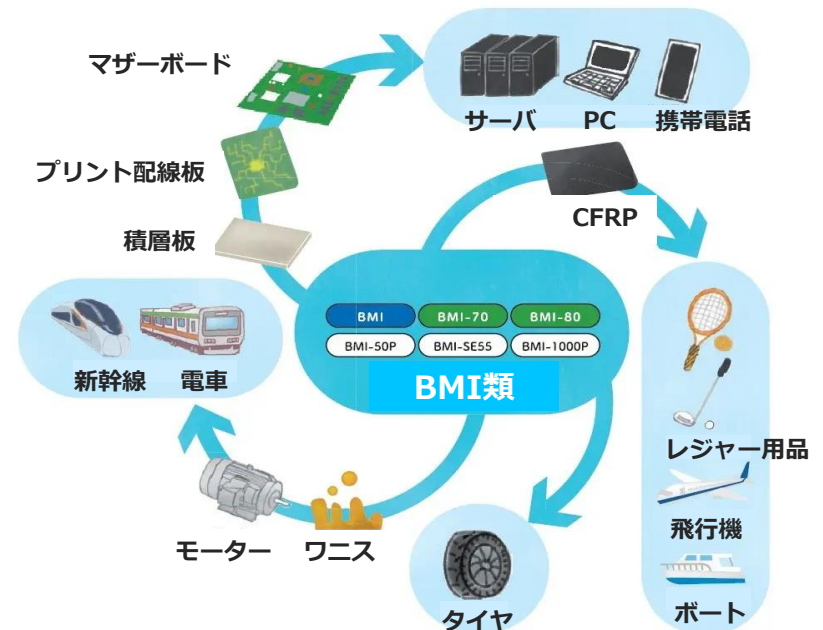
■ 半導体向け製品 **ビスマレイミド(BMI)類**の生産体制を強化 子会社ケイ・アイ化成（株）の **新プラント**が完成

生成AIサーバー向け電子材料の需要増加に加え、
通信ネットワークの拡充により注目を集めている**低軌道衛星（LEO）**に
も新たに使用されるなど、今後の需要拡大が見込まれる。



BMI類製品

新プラント外観



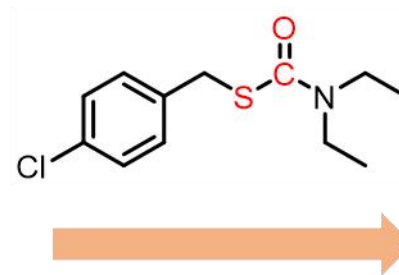
化成品事業の成長ドライバー –高純度COSガス–

■最先端半導体メモリ分野への進出

半導体グレード**高純度COSガス**の販売開始

自社除草剤主要原料（静岡工場）

COS
硫化カルボニル



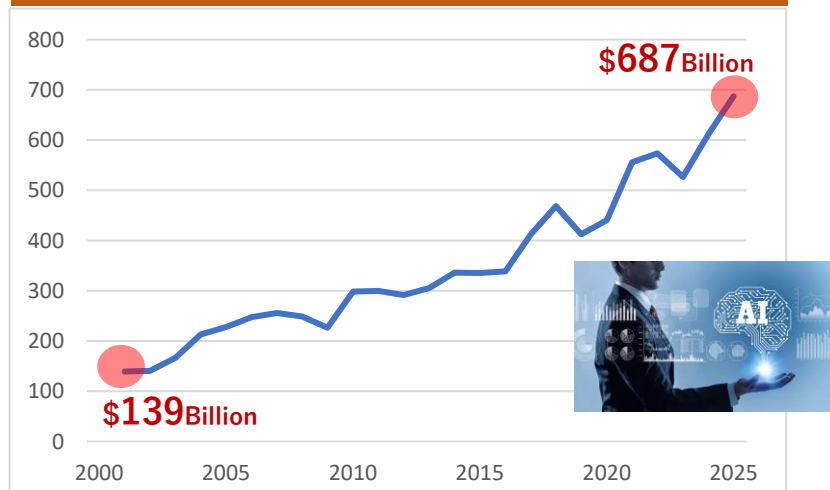
- 当社の農薬中間体 **硫化カルボニル（COS）** が
半導体メモリ（3D NAND）向けエッチングガスとして
使用されていることに着目
- 2021年にCOS精製プラントを新設
- **半導体グレードの高純度COSガス**を製品化することに成功

化成品事業の成長ドライバー –高純度COSガス–

高純度COSガス

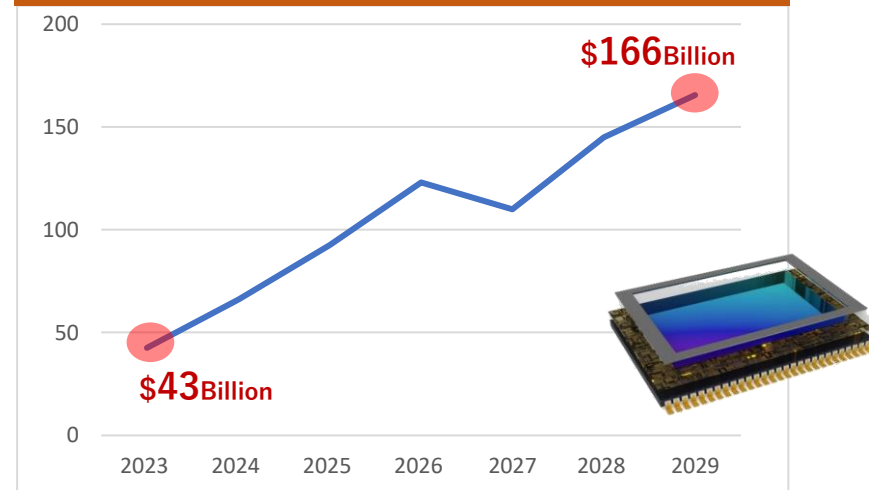
用途	半導体メモリ（3D NAND）向けエッチングガス※ ※半導体の微細加工に使用される特殊ガス
特徴	主力事業の技術を基盤とした高品質・高純度な製品
市場	生成AIなどの普及に伴い、半導体の需要増が期待されており、今後も成長が期待できる分野

半導体市場



引用：『2024年秋季半導体市場予測について』, 世界半導体市場統計 (WSTS)

3D NAND

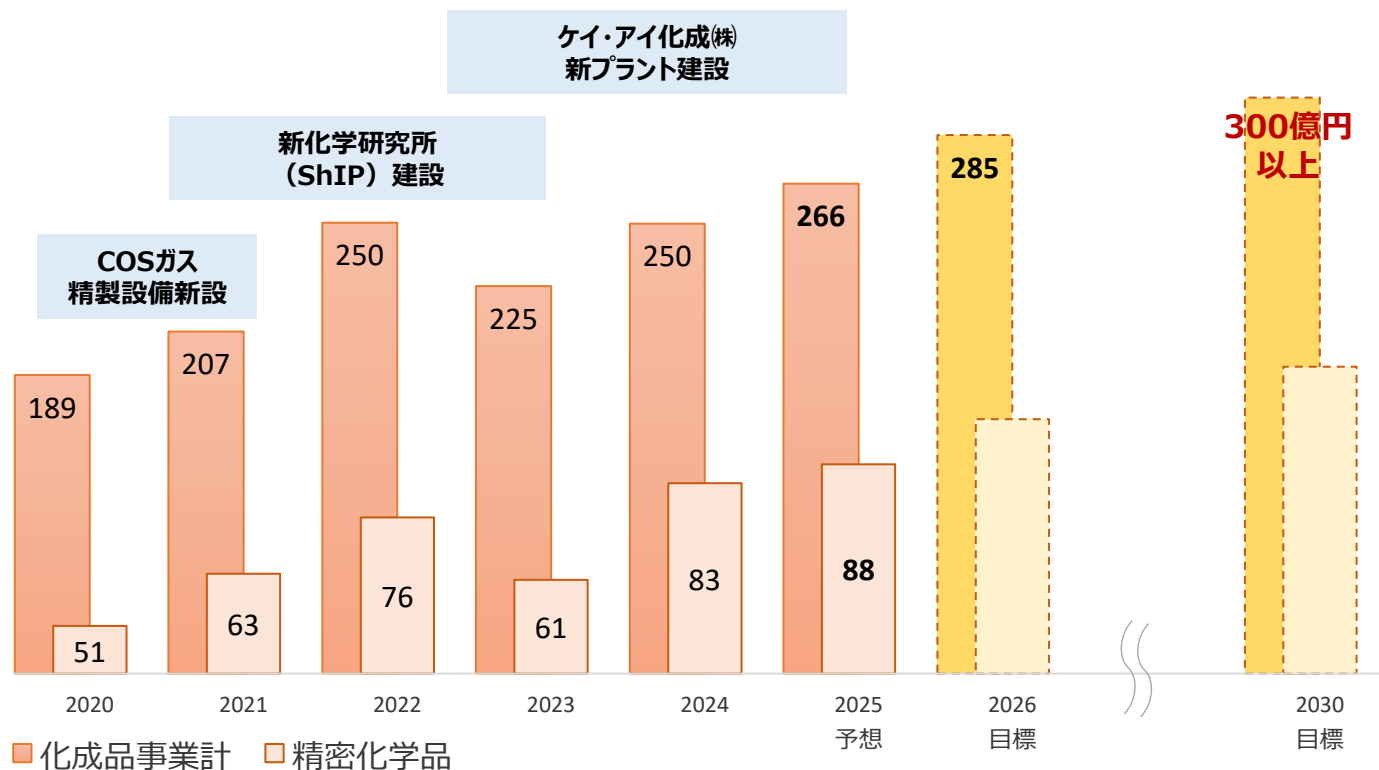


引用：『2024年 半導体材料市場の現状と将来展望』, 株式会社富士経済

化成品事業 – 今後の見通し –

最先端半導体メモリ分野を含む
新たな事業領域の拡大を目指す

化成品事業の売上推移（億円）



自然に学び 自然を守る



クミカ

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手した情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<お問い合わせ先>
クミアイ化学工業株式会社
経営管理本部 経営企画部 企画課

弊社IRサイトもご覧ください <https://ir.kumiai-chem.co.jp/>